

# 近畿中国局フォレスターNEWS

## 「林地保全に配慮した森林施業と再生林の着実な実施」 現地検討会の開催について

令和4年11月29日(火)と11月30日(水)の二日間にわたり岡山県新見市において、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所、近畿中国森林管理局技術普及課との共催、岡山県の協力により、「林地保全に配慮した森林施業と再生林の着実な実施」をテーマに、近畿中国局森林管理局管内の14府県から自治体関係者や林業事業者等、90名程度の参加により開催されました。



講演会場の様子

### 1日目(11月29日)



森林総合研究所関西支所 多田主任研究員による講演

岡山県新見市のJA晴れの国岡山3Fホールにて講演会を実施しました。

はじめに、森林総合研究所関西支所の多田主任研究員より「林地保全に配慮した施業について」の講演がありました。林業と国土保全の両立をテーマに、地質、植生、水環境など様々な要素を総合的に判断しながら、林業に適した地域、国土保全に適した地域などのゾーニングの考え方等を学びました。参加者からも多数の質問が寄せられ、このテーマが民有林、国有林の林業関係者の共通の課題であることが改めて認識されました。

次に当局の嘉門企画調整課長より「森林管理局の新しい林業プロジェクトチームの取組み」、技術普及課の上野企画官より「森林管理局の低密度植栽試験」について紹介がありました。「1,000本/ha植栽と1,500本/ha植栽の材質の違いはあるか。」等、参加者からの質問も寄せられ、国有林の取組に関心が高いことがわかりました。

その後、森林総合研究所関西支所の中尾主任研究員より「ドローンでの植栽木と雑草木の競合判定」についての講演があり、植栽エリアのオルソ画像の解析により、植栽木と競合木の位置関係と色の解析により被圧度合の判定が可能であるとの研究成果の発表がありました。

また、岡山県治山課造林班の高橋主幹より「少花粉の森づくりに向けて」として岡山県が実施する取組事例の紹介がありました。

その後全体的な質疑討論があり、積極的な意見交換が行われて1日目が終了しました。



岡山県治山課造林班 高橋主幹による講演



豊並樹苗生産組合による少花粉スギ・ヒノキコンテナ苗の展示



## 2 日目(11月30日)

岡山県新見市の三室国有林にて、現地における検討会を実施しました。  
 当局で実施している「新しい林業」の実現に向けた4つの取組について、参加者が2班に分かれて現地を巡る形式で説明と質疑を行いました。

**【一貫作業システムと下刈り回数の削減】**  
 コンテナ苗の一貫作業システムによる植栽試験地の説明を行いました。

植栽時期を選ばないコンテナ苗と一貫作業システムの組み合わせにより、地拵えの経費削減、下刈り回数の削減に繋がり、造林コストの削減に貢献できることがわかりました。



森林技術・支援センター 草深所長による説明

**【低コストシカ柵(展示)】**

アニマルネット(ホームセンター等で購入可能)を使用した安価で軽量、編目細かいネットの活用と、支柱の代わりに立木を使用することでコストの削減が可能であることがわかりました。積雪への対応等が課題となります。



森林整備課 池上造林係長による説明



保全課 小林保護係長による実演

**【小林式誘引捕獲法】**

シカの習性に基づく、誘引エサと現地の石等を使用した。わな設置技術の有無を問わない、顧客効率の高い捕獲方法について、発案者である保全課 小林保護係長による実演を行いました。



森林技術・支援センター 黒瀬専門官による説明

**【ノウサギN型誘引捕獲わな】**

ノウサギの好むエサで誘引し、N型の一番狭い部分に、くりわなを設置して捕獲する方法の説明を行いました。

現在新見市内の試験地に設置しており、捕獲にむけた取組を継続しています。

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課 国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524

Email:kc\_fukyu@maff.go.jp

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75



編集後記

本年もよろしくお願いたします。

今回は、2日間にわたる現地検討会の内容を紹介しました。

検討会でのテーマについては、どれも「新しい林業」を実現させるために重要な要素です。

今後とも民有林、国有林のフォレスターが協力し、地域課題の解決にむけて取り組んで参りたいと思います。